

高い志と豊かな感性を持ち、21世紀を生きぬく生徒を育てる

～ICTを活用した表現活動の充実による人と郷土を愛する子どもの育成～

表現力、異文化理解、PR動画づくり

三朝町立三朝中学校

〒682-0152
鳥取県東伯郡三朝町本泉430番地

<http://www.torikyo.ed.jp/misasa-j>

1. 研究の背景

本校は、目指す「高い志と豊かな感性を持ち、21世紀を生きぬく生徒」を育てるために、次期学習指導要領(平成33年4月全面実施)の、「育成すべき資質・能力の3つの柱」のうち、『知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)』と『どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)』の2点を特に重視したいと考えている。

これを踏まえ、これまでの研究成果をより充実させるために、PR動画づくりを通して表現力を培い、生徒同士の相互理解と国際交流を通じた異文化理解を深め、共に生きていくための資質や能力を高めることを目標として、ICT機器等の活用によって表現力や発信力を高める生徒の育成に取り組むこととした。そのためには、本校教職員のみならず、町内小学校教職員と町教育委員会、県外の映像制作の専門家および地域人材と連携しての共同研究を行うことが適切だとも考えた。

本校は、鳥取県中部地区の山間部に位置し、県内有数の観光地を有する三朝町にある、全校171名の小規模校である。国際交流に理解のある三朝町の支援によって、現在は台湾・フランスに毎年生徒を派遣したり、姉妹校である台湾石岡国民中学の生徒の訪問を受け入れたり、グローバルな視点を持つ生徒の育成に積極的に取り組んでいる。

近年、ICT機器は身近なものとなり、動画での発信は通信環境や機器の手軽さなどからも表現活動の一環として、学校でも取り組めるものとなってきた。本校は、平成26年度から外部講師として映像作家を招へいし、動画制作の基礎を学び、平成27年度からは、地域と連携してふるさと三朝PR動画づくりの企画、交渉、撮影、編集に取り組んだ。平成28年度には、その取り組みを石岡国民中学の生徒とともにいき、国際交流活動としても発展させてきた。その動画を制作し終えた10月に鳥取県中部地震が発生し、急遽『元気です！みささ』のショートムービーづくりにも挑戦し、町内温泉街の各事業所と東京都新橋にある県物産館『ももてなし館』で、訪れた人への発信も行った。

2. 研究の目的

これらの活動をすべての生徒により効果的に提供し、生徒の表現力をさらに高めるためには、ICT機器の充実やこれまで学んできた動画制作の基礎を使う場面の設定、指導する教師側の研修も必要である。こうした環境の整備や積極的な取り組みを通して、自分の学校や住む町を表現していく活動は、自校や地域に対

する愛着を育て、結果的に他者や異文化を大切にすることにもつながると考えた。また、本校のこれまでの活動の成果は、全国学力学習状況調査の質問紙や校内実施の学校評価アンケートで客観的に得られており、今後の活動に一層期待が持てるとも考えている。

この研究を通して、生徒の表現力を高めるだけでなく、教職員も表現力を高め、リテラシーを指導できる力を身につけることで、担当教科への応用発展にもつながり、子どもたちの確かな学力、21世紀を生きぬく力の育成にさらに働きかけることができると強く感じている。また、町や町教育委員会、町観光協会等とも連携することで、本町が生涯学習を見通した表現力をもつ地域となる可能性も秘めていると言える。

本校生徒が、自校や身近な地域の良さを収集する中で新たに再発見し、それらを発信する能力を身につけることで、ふるさとを愛する人材を育成したい。また、これまでの研究を発展させるために、「総合的な学習の時間」を中心として、他教科との連携を図りながら表現力を高める試みを一層充実させたい。

3. 研究の経過

月	取り組み内容（○内は学年）	評価のための記録
4	職員 【研究職員会】	
5	総合 修学旅行での動画制作し参観日での上映会③	動画作品（生徒）
7	総合 ふるさと三朝PR動画づくり 国際交流（台湾・石岡中生徒と共同作業）②	観察記録・動画作品（生徒）
	職員 【研究職員会】実技演習	
7～8	国際交流 フランス・台湾で上映する動画制作②③	動画作品（生徒）
	国際交流 台湾訪問での上映発表と活動の撮影②③	動画作品（生徒）
9	総合 動画制作の基礎①	観察記録・動画作品（生徒）
	職員 【研究職員会】情報モラル・リテラシー	
	国際交流 フランス訪問での上映発表と活動の撮影②③	動画作品（生徒）
10	総合 学級目標をテーマとした動画制作①②	観察記録・動画作品（生徒）
	国際交流 国際交流事業の動画によるまとめ②③	
11	総合 校内文化祭でのクラスごとの動画の発表①②	保護者アンケート
	国際交流 国際交流活動での動画発表②③	観察記録・動画作品（生徒）
	総合 卒業動画アルバムの企画と撮影の開始③	
12	職員 【授業研究会及び研究職員会における評価】	
1	美術 コマドリアニメーション制作および鑑賞②	観察記録・動画作品（生徒）
1～2	総合 卒業動画アルバム撮影・編集 完成③	観察記録・動画作品（生徒）
3	職員 【学期末の職員による評価及び研修会】	

3年間を通じた動画制作による表現活動のカリキュラムを、総合的な学習の時間及び美術、技術・家庭（技術分野）を中心に作成した。

1年生では、動画制作の基礎を専門家である映像作家の指導のもと、最新の知識や技術を知り、機材の使い方、撮影の方法、注意点、より相手に伝わりやすくなる編集などを学んだ。また、校内文化祭では、1・2年生がクラスごとに学級目標をテーマとした動画を制作し、全校に向けてプレゼンテーションを行った。

2年生では、映像作家と共に、より表現力を高める活動として、ふるさと三朝をPRする動画の企画と制作を通して、リテラシーを身につけ、撮影の交渉、演出、編集の技能を高めた。また、国際交流活動に絡めて、日本語や台湾語、フランス語による字幕を加えて、町内だけでなく台湾へ、三朝町の交流都市である、フランスのラマルー・レ・バン町へも発信した。

3年生では、日本文化を題材にした動画を制作し、台湾やフランスに紹介した。また、3年間の集大成として、これまでの中学校生活をふりかえる卒業動画アルバムの企画、撮影、編集も行った。

これらの学習成果を活用して、台湾やフランスを訪問した生徒が三朝町や日本の紹介を行った。また、訪問した生徒は動画で台湾やフランスの様子も制作し、現地の様子をよりわかりやすく全校生徒や町民へ伝えた。

加えて、本校の全教職員が動画制作の指導ができるように、映像作家による研修会を行うことで、総合的な学習の時間だけでなく、担当教科での動画の活用を推進した。また、職員研修会には町教育委員会や町内小学校教職員の参加も呼びかけ、小中連携で指導力を高める取り組みも行ったが、外部講師の映像作家と小中学校間の日程調整がうまくいかず、参加者がそれほど多くならなかったことは残念であった。

4. 代表的な実践

【ふるさと三朝 PR 動画づくり】2年生（12班） 台湾・石岡国民中学 生徒 16名

三朝中学校は台湾台中市にある石岡国民中学と昨年度から姉妹校を締結しており、生徒と教職員の相互交流を行っている。その際、県内有数の観光地である本町の温泉街を舞台に、PR 動画づくりを通して国際交流を図っている。

●6月 企画づくり（3時間）（三朝中学校生徒）

町内のマップやホームページ、5月に行った職場体験学習の経験を元に、班ごとにPR 動画の企画を考える。どういう三朝を伝えたいかというテーマを班ごとに設定し、それを表現するための内容、役割分担はどうするか、台湾の生徒への説明や役割なども併せて考えた。自分たちで作詞作曲した歌を考えてきたり、温泉キャラクターの着ぐるみを借りたりする班もあった。また、撮影協力をお願いする事業所へ、あらかじめ撮影内容や時刻を伝えることも生徒たちが行った。



●7月 撮影（2時間）（三朝中学校生徒・石岡國民中学生徒）

各班1台ずつiPadを使って2時間で撮影を行った。既に1年次に編集作業なども経験しているので、編集することを前提に効率よく撮影を進めている班がほとんどであった。この日は、外部講師として招へいしていた映像作家所有のドローンでの撮影を行った班もあった。カメラの動きなど、自分たちの考えた内容になるよう、映像作家と確認し合っていた。台湾石岡国民中学の生徒にインタビューしたり、一緒に考えたダンスを行ったりする班もあった。ジェスチャーや英語、通訳を通じて意思疎通を図り、期待以上に生徒同士による国際交流の場にもなっていた。



●7月 編集（2時間） 鑑賞（1時間）（三朝中学校生徒・石岡國民中学生徒）

撮影した翌日、編集した動画のその後の活用を想定して編集作業を行った。同時にテロップの入れ方やアフレコの仕方など、編集によってさらに内容が伝わりやすくなる方法を学んだ。日本語の音声台湾語に、またその逆にも挑戦したが、両校の生徒が翻訳アプリなどを使って確かめ合ったり、訂正したりしながら入力や録音をしていた。完成後、各班4分の作品を鑑賞した。内容もバラエティに富み、アフレコや字幕なども入れ、見る人の側に立った表現が多く見られた。



●7月 10月 11月校内文化祭、町内の子どもフェスティバルでの発表（三朝中学校生徒）

そこまでの取り組みで制作した動画を10分程度にまとめたものを、7月末に台湾、10月にフランスへ生徒が訪問する際にPRとして上映した。それぞれに字幕を付けたことで、現地でも好評で三朝町や日本の様

子をよりわかりやすく伝えることができた。11月には、台湾やフランスでの交流の様子を、生徒がそれぞれ動画で撮影したものを自分たちでまとめて町内の小学生に対しても発表した。

【その他の取り組み】

●1年生では、初めての動画制作の学習を行っている。自宅で動画を撮影したことのある生徒は年々増えているが、編集をしたことのある生徒はわずかである。編集を体験することで、より表現力を高める機会となっている。

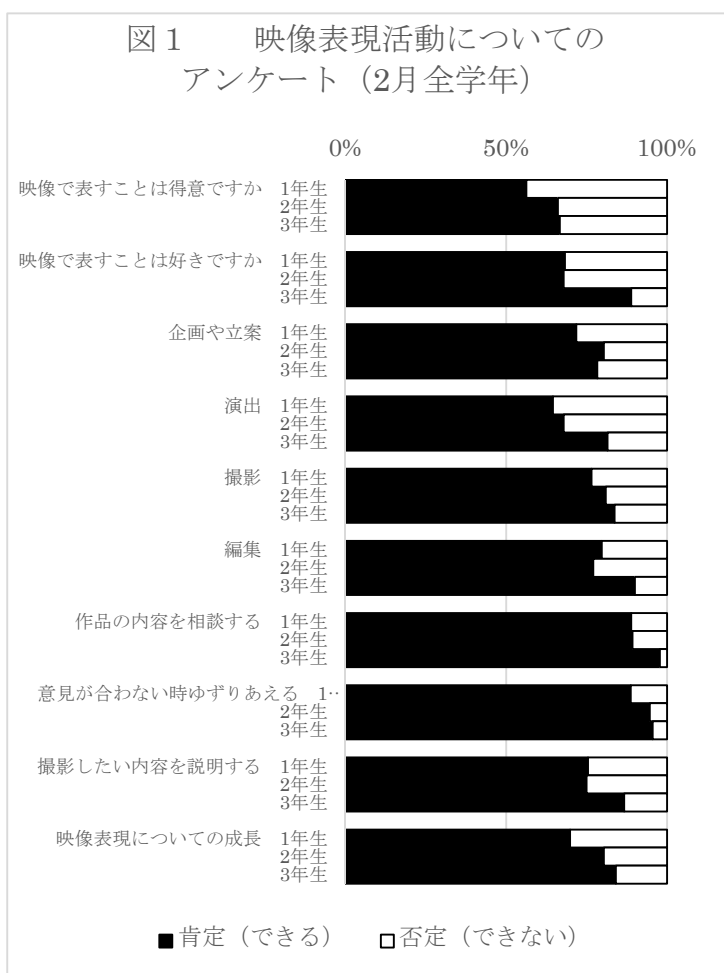
●3年生では、3年間学んできたことの集大成として、卒業動画アルバムを制作する。それまではテーマの決まった動画を作っていたが、最後は自由テーマでクラスごとに企画を考える。今年度は、2クラスが8本ずつの動画を制作した。

5. 研究の成果

【生徒の変化】

1年生では、撮影するのもされるのも慣れていないが、学年が上がるにつれ、映像で表現することが当たり前と受け止めるようになった。ただ撮影するだけでなく、よりよい表現となるように工夫したり、操作が手軽なので、撮影後に確認をして再撮影したりする姿も学年が上がるにつれて多くなった。アンケートを学年ごとに比較してみると、図1の結果となった。ほぼどの項目に対しても、学年が上がるにつれて肯定的なとらえをしている生徒が増えており、アンケート全体としても肯定的な評価が7割を超えるものがほとんどであった。年度当初にアンケートを実施していなかったため、同じ生徒の変化を数字として比較できなかったことがとても残念である。次年度への課題としたい。

映像づくりは他の表現活動と違って、共同で作業することが重要であるが、その項目について、生徒は非常に高い肯定的評価をしていることがわかった。一人では表現する時に自信がない生徒も多いが、互いにアイデアや意見を認め合うことで自信をもって表現できることに生徒自身も気づいていると思われる。



【教員の変化】

英語科では、スキット発表を生徒が相互に撮影し合い、自分の表現を客観的に評価する機会を作った。良かった点として、客観的な評価を通して自分の表現を高めることに役立てられたことが挙げられる。また、

それまでは自分のクラスのよい発表を見ることができたが、他クラスのよい発表も映像で見ることができるようになった。さらに発展的にタブレットを活用したいと考えている。

理科では、実験のまとめにタブレットを利用することにより、写真やアプリを用いてわかりやすくまとめることができるようになった。また、発表する時にもスムーズに情報を共有することができ、相手にわかりやすく伝えるための工夫がこれまで以上に見られるようになった。3年間を通して活動を行うことができれば、より表現力が高まると感じている。

年度末になったが、社会科から、歴史・地理分野で生徒の調べ学習のまとめとして、動画による表現活動を次年度に取り組みたいという要望もあり、現在その具体的な方法を検討中である。

【町の変化】

町内には、動画の撮影はしたことがあるが、編集の経験のない教師が多かったので、小学校との合同研修会では、動画制作のポイントだけでなく、共同作業の際の注意点や本校での失敗例なども提示し、動画による表現活動に取り組むきっかけづくりを行った。思ったより簡単にできた、iPad だけでこんなにできることが多いとは思わなかったなどという感想があった。そして、この研修が小学校からの町に対してタブレット機器導入の予算要求につながった。その予算要求を受け、中学校での活用の様子を視察したいとの連絡が町長からあり、中学校の取り組みを紹介した。ICT機器の整備について、次年度以降の町の前向きな姿勢を感じた。

6. 今後の課題・展望

表現活動を充実させる目的ために、その内容を発信していくことを考えたが、年度当初予定していた Web での公開に関しては、作品内に生徒が多数出演するため、今年度は検討課題として公開を控えた。次年度に向けて、不特定多数の閲覧も可能な表現方法の工夫なども、学習活動の一環として取り入れる必要があると考える。生徒自身が自分の個人情報の重要性に気づき、それを踏まえた内容や表現ができる指導力を、教師自らが高めていく必要がある。

また、全教科での取り組みに広げていく必要もあると考える。現在は、機器の操作に自信のない教師の授業では、導入できる要素はあると感じているが、なかなか実践に至っていないのが現状である。音楽科や保健体育科、国語科などでの活用を具体的に提示したり、情報担当者がチームティーチングなどを行ったりすることで、より表現活動の深まりが得られる授業を構成できると考える。

今年度導入した iPad は 6 台である。クラスの班ごとには行き渡る数であるが、学年全体での使用となった場合や複数学年が同時に使用する場合には、まだ不足している。町予算などにも働きかけ、機器の充実を図ることも課題と考える。この点については、前述した町の変化でも前向きな姿勢が感じられるので、さらに研究推進を図り、提案していく必要がある。

代表的な実践例とした、町の PR 動画については、他校にも紹介したところ、近隣の中学校で同様の内容を実践した学校があった。さらにパッケージ化することで、どこの市町でも取り組める内容とすることができると感じている。また、動画制作のノウハウなどを本校で学んだ教師が、転任先などで活用されることも期待できる。また、授与式後に交流した岡山県の商業高校から、本校の取り組みを参考にしたいということで、本校の美術科教諭と外部講師が招かれ、高校生が観光地の PR 動画を制作する授業を行った。

7. おわりに

本年度取り組んだ内容は、これまでの本校の研究をより発展的にすることや新たな課題を見つけることにつながった。また、授与式で交流した他県の取り組みなどを見ることや、さまざまに交流することで新たな気づきや発展の可能性を感じることができた。

終わりに、顕著な本研究の成果を客観的に伝えるために、外部講師を務めてもらった、映像作家の服部かつゆき氏からの言葉を掲げておきたい。

「本年度、初めて3年間動画制作を学習した生徒たちが卒業した。3年間段階的に動画制作を学習することで、初歩的な情報収集発信の能力を越えて、その習熟度が高まっていたことが確認できた。特に3年次の生徒たちは用途に合わせて自ら思考し、応用を効かせて情報収集発信をできるようになっていた。生徒の撮影に立ち会うことで、臨機応変な思考モデルの定着を実際に確認できた。例えば、2年生の三朝温泉 PR 動画制作、3年生の卒業動画アルバム制作では、撮影日に悪天候などを理由に事前に計画した撮影の困難な状況が生じたが、生徒たちはそれらの状況を冷静に受け入れるだけでなく、撮影場所やアングル、内容の代案を素早く考案し、限られた作業時間内で制作を継続していた。このような臨機応変な集団的思考活動を行う生徒たちの姿を見て、1年次と比べて一人ひとりのコミュニケーション能力が格段に向上したと判断できた。コミュニケーションにおいては、その伝達効率を考慮して、各種の媒体を組み合わせることが好ましい。これまで主に動画制作に限定されていた ICT 機器の利用が、本年度は他教科に本格的な拡がりをみせた。動画制作の実践だけでは難しい生徒の総合能力の向上が今後益々期待できそうだ。」

8. 参考文献

- ・学習指導要領(平成 33 年 4 月全面实施)